

旭化成ホームズ、旭化成リフォーム、LIXILの3社が使用済みアルミの水平リサイクルスキームを構築、関東から運用開始

株式会社LIXIL

株式会社LIXIL、旭化成ホームズ株式会社および旭化成リフォーム株式会社の3社は、住宅の改修工事に伴い発生する使用済みアルミ部材を回収し、再び住宅用アルミサッシとして再生する資源循環スキームを構築しました。2026年4月より関東エリアから本スキームの運用を開始しており、アルミ資源の効率的な循環と住宅分野におけるサーキュラーエコノミーの実現に向けた取り組みとして注目を集めています。今後は本格運用に向け、回収対象エリアの段階的な拡大と再生プロセスの高度化を進めていく方針です。

Ⅰ．資源循環スキームの概要

本スキームは、旭化成リフォームが施工する改修工事で発生した使用済みアルミ部材などを、旭化成ホームズが「広域認定制度※」を活用して適切なタイミングで回収する仕組みです。回収後の部材は、旭化成ホームズの社内施設で分離作業を行った後、物流を担うセンコー株式会社の新築部材配送後の「帰り便（帰路トラック）」を有効活用してLIXILへ直接輸送されます。これにより、リサイクラーやスクラップ業者を介さないダイレクトな回収ルートを確立し、物流の効率化も同時に実現しました。

こうして回収されたアルミ部材は、LIXILの独自技術により、リサイクルアルミ使用比率を高めた循環型低炭素アルミ「PremiAL（プレミアム）」として再生され、旭化成ホームズの住宅用アルミサッシをはじめとする新たなアルミ製品の原材料として再供給されます。

関東エリアでのトライアル運用では、住宅用サッシやフェンスなどの回収から再生までの一連のプロセスをすでに検証しており、新地金の使用を抑制することで、製造工程におけるCO₂排出量削減にも寄与しています。

Ⅱ．背景と今後の展望

世界的な潮流となっているサーキュラーエコノミーへの移行に伴い、住宅・建築分野でも資源循環の重要性が急速に高まっています。しかし、住宅部材は廃材発生時期の不確実性や長期使用による劣化、過去の仕様の違いなどから、適切な回収や品質・製造管理を伴う再資源化が困難であり、業界全体の課題とされてきました。

こうした課題に対し、竣工後も長期点検制度などを通じて顧客との接点を持ち、廃材の回収・分別・再資源化を推進してきた旭化成ホームズ・旭化成リフォームの両社と、約30年にわたりアルミのリサイクル技術開発に取り組み、業界トップクラスのリサイクルアルミ平均使用比率80%を誇るLIXILの強みが融合しました。

改修工事から発生する使用済みアルミ部材の回収から再生、そして再供給までを一体的に連携させる「水平リサイクル型」の資源循環スキームが構築されたことで、住宅業界における持続可能な社会の実現に向けた大きな一歩となることが期待されています。

※広域認定制度：環境大臣が産業廃棄物の再資源化に資する広域的な処理を行う者を認定し、関係する地方公共団体ごとの許可を不要とする特例制度。産業廃棄物の再資源化をより一層促進させるために創設された。

